

【加藤】 皆さん、こんにちは。聞こえておりますでしょうか。5時の予定の時間になりましたので、23回目のIGF活発化チームの会合を開催したいと思います。

山崎さん、聞こえていますか？ 皆さん、聞こえていますか。

【山崎】 はい。よく聞こえております。

【加藤】 それでは、今日のプログラムのアジェンダをもう少し下にスクロールしていただけますか。そうですね。ありがとうございます。

最初のほうの前回の振り返りとかいうのは見ていただいていると思いますので、アジェンダの項目に移りたいと思います。

まず最初に、お名前は先ほどから拝見しておりますけれども、飯田様のほうから、日本政府としての今の検討状況をご報告いただければと思いますが、いかがでしょうか。

飯田様、よろしくお願いします。

【飯田】 すいません、聞こえていますか。

【加藤】 はい。聞こえております。

【飯田】 まず、ミッションについてご報告をいたします。IGFのアセスメントミッションですが、予定どおり9月3日に訪日をするようになっておりまして、会場の視察等をするわけですが、9月7日と8日を東京で、いろんな人との面談に充ててもらおうと思っています。なので、ちょっとスケジュールは込み合うと思うんですが、7日か8日に活発化チームの方々でお時間が合う方には、一度お会いいただける機会があればなと思っていますので、大変恐縮ながら時間と、場所は後で何か考えることはできると思うんですが、調整をお願いできればと思います。

今のところ、基本的には霞が関周辺を回るのが多いと思いますので、7日、8日はそんなに遠出はしないと思いますので、東京で、多分30分から1時間の間ぐらいで皆様と意見交換できればいいのかなと思っていますので、恐縮ですが、時間調整をお願いできればと思います。

もちろん、どうしても、どなたも難しいということになれば、これはまた別途考えたいと思いますけども、一応ミッション側、IGF事務局側にも、日本のインターネットガバナンスコミュニティとの意見交換をできるようにしたいというふうに知らせてもありますので、できればよろしくお願いいたします。

それから、国内の体制のほうなんですけれども、これ、我々が旗を振ってというあれでもないんですが、2023年のIGFを準備するために、いろいろマルチステークホルダーでアドバイスというか、いろんな示唆をいただいて、むしろ我々のほうがそれに従ってその準備をするというような意味での、アドバイザーを兼ねたマルチステークホルダーでの協議会みたいなものを立ち上げていただく準備を省内でも進めております。一応その受皿とか、いろいろ準備がないと、私どものほうも組織的に対応できなくなりますので、ずっと言っていて、なかなか形やいろんなことが決まらないで時間がかかっているんですけども、今、最終段階に来ていますので、あまり最初から大がかりに考えてもなかなか立ち上がれなくて、時間ばかりがたちますので、インターネット関連の主要団体と、あと経団連さんぐらいにお声がけして、取りあえずはミニマムのメンバーでなるべく早く立ち上がっていただけるような方向に、ちょっと頭を切り替えています。

一旦立ち上がってから、また広くいろんな関連の団体、もともとこの場での議論でも、あらゆる人がインターネットに関わりがあるんじゃないかというお話もありますので、幅広くオープンに声をかけていくというふうにしたいとは思いますが、取りあえずはミニマムのメンバーでもいいので、立ち上げができるようにしていただこうかなと思って、今、省内や関係のところと急ピッチで準備をしているというところでございます。これも、もう少し具体的にその日程とかスケジュール、形とか、お話しできるようになりまし

たら、ご案内したいと思います。

それから、これはもう皆さんのほうがよくご存じだと思いますけど、東京へのミッションの次の週、9月11日の週にはアジアパシフィックのIGFがありますので、私ものぞいてみたり、少しインバイトされているところもありますので、できる限り顔を出したいと思っているんですが、ぜひ皆様もそこでの議論をご覧いただいて、我々の日本のIGFコミュニティの議論にも結びつけていただければと思っておりますし、これは当然グローバルな今年のIGFへの橋渡しにもなっていくんだと思っています。

それと、これ、またちょっと性質が違うんですけども、国連側の事務総長のハイレベルパネル以降、グローバルなデジタル協力をどう強化するかという取組の中で、MAGに、MAGの上にと言うと言い方が悪いですけど、ハイレベルボディーをつくるという議論がずっとありまして、これは、我々としてはMAGの上にそういう意思決定の屋上屋を重ねるようなものはつくるべきではないと、MAG自体がIGFの意思決定機関であるべきだということをずっと主張してきたんですが、ちょっと性質ははっきりしないものの、Leadership Panelというものが立ち上がっています。15人ぐらいのメンバーで、非常に、Vint Cerfをはじめ、ほかに、すごく有名かというとはよく分かりませんが、(UN Tech EnvoyであるAmandeep Singh) Gillさんとか、そういう方が入って立ち上がってまして、多分ネット上では、ボトムアップアプローチの終焉だ、みたいなことも言われているように見えます。それはもともと非常に危惧していたことですので、そういうふうな方向には向かわないようにしたいと思っています。

幸いかどうか分かりませんが、日本はフューチャーホスト国メンバーとしてこのLeadership Panelに入っていますので、組織の代表として総務審議官が出ることになりそうです。ですので、今後の議論をフォローして、これ、Leadership Panelだけではなくて、デジタルグローバル、デジタル協力自体の強化自体がどう進むかということ全体を見なくてはいけないんですけども、そうしたものをしっかりマルチステークホルダーアプローチを堅持して、2025年の見直しに向けて、むしろ強化していくような方向に議論を進めてもらうように貢献していきたいと思っています。

あとは、若干、直接どのくらい関係があるか分からないところもあるんですが、その一環で議論されてきたTech Envoyですね、国連事務総長の補佐役になるTech Envoyも指名をされていて、元GGの議長をされていたGillさんがなったということで、10月に訪日されるそうですので、そこでもIGFの強化については意見交換をしていきたいと思っていますし、これ、今、お話ししたような大きなインターネットガバナンスやグローバルなデジタル協力の強化・見直しという文脈の中で、しっかりIGFの強化に取り組むという形で貢献していきたいと思っていますし、まさしくその、裏側ということはないですね、それを支えるものとして、IGFを実際に強化した形で開催するという、その本来の目的にしっかり結びつけていきたいと思っています。

ちょっと話が抽象的で恐縮ですけども、一応私どものほうからは、関連のアップデートとしては以上でございます。

【加藤】 どうも飯田様、ありがとうございました。皆さん、ご質問とかはございませんでしょうか。いかがでしょうか。

堀田さん、お願いします。

【堀田】 どうも飯田さん、ありがとうございます。とても丁寧にご説明いただいてよく分かりました。一部、活発化チームとの関係でいうと、協議会というのがどういうものかというのが少し気になったんですけど、協議会というのは2023を目指すものなのか、それとも永続的なものなのか、どっちにしようという立てつけを今のところ考えていらっしゃるんだろうというのが質問です。

【飯田】 これは、私の考えが全員に一致しているか分かりませんが、基本的にこの協議会自体は2023を成功させるための組織というふうに考えています。それが2023をきっかけとしてその後の継続的な取組に、もちろん結びついていけばいいですけども、そこには今この活発化チームが何らかの形でNRIになっていくものがコアになると思います。

ので、交流というか、融合されていくのが理想形だと思っていますが、必ずしもこの協議会自体が残る、残らないというのは副次的なもの、もちろん盛り上がって残って、NRIに合流してくれる人がたくさん増えるという、人や組織がたくさん増えるというのが理想的だと思っていますが、取りあえず本来の目的は2023に向けたものという理解をしています。

【加藤】 堀田さん、よろしいでしょうか。

【堀田】 ありがとうございます。考え方は分かりました。

【加藤】 ほか、皆さん、いかがでしょうか。

【上村】 上村ですけど、よろしいでしょうか。

【加藤】 上村先生、お願いします。

【上村】 ちょっとビデオの調子がよくないので、取りあえず声で失礼します。何点か質問があります。飯田さん、大変詳しいアップデート、ありがとうございました。

1点目は、先ほどの堀田さんの質問に関わることでですけど、質問というよりは注文というか、コメントかもしれません。協議会をつくって、その後どういう形でNRIにつながるのか、つながらないのかという辺りは、あんまり成り行き任せにしないで、少し立ち上げのときにははっきりとイメージを持っておいたほうが良いような気がします。そうしないと、終わってから、集まった人たち、じゃあどうしようというので、解散も存続も中途半端になってしまう可能性があるような気がします。というのは、やっぱりこの活発化チームなるものがあること自体が、複数のイニシアティブが並存してしまったことの後始末をつけようとして、うまくいっていないような状況もあるわけなので、さらにそこに協議会などが立ち上がるとなると、一体日本はどうなっているんだということにもなりかねませんので、少しそこは出口戦略というか、クロージングの戦略を、この協議会の音頭を取る立場の方がしっかりとつけておくのが理想的だと私は思います。もちろんいろんな思惑やお考えがあるということなのでしょうから、そうならないこともあるかもしれませんが、一応、私はそういうふうに関心しております。

それから、今のはコメントですけども、質問が何点かあります。1つは、Leadership Panelに日本が2023のIGFのホストカントリーということで名前が事実上出たわけですけど、我々はワーズ・オブ・アナウンスで日本が2023のホストになるという話は聞いているわけですが、世界的には「え、そうなの？」と思った人がいるのではないかと思ったんですけど、この辺は今どういう状況なんでしたっけ。まず簡単な質問、1つ目ですけど、この点はいかがでしょう。

【飯田】 すいません、実はご質問の最初のほうで接続が一旦切れまして、今、つなぎ直したところなんですけども、日本のホスト国としてのステータスは、細かいことを言うと、このミッションが来て、いろんな確認をして、国連側としてオーケーだねと、日本でやっても大丈夫だねということになって正式なレターが来て、初めて正式に決まるということになっています。ただ、もう既にフューチャーホスト国というステータスで、去年のIGFとか、いろんなところでも紹介されていますので、事実上内定しているということは大っぴらに広まっていると思います。

一方、そういう情報に接していなくて知らない人はもちろんたくさんいると思いますので、むしろ我々は今は、まだ最終確定ではないということは置いておいて、2023年は日本だから来てねということを経験したところでもう既に宣伝し始めている状態で、あんまりやり過ぎると、正式なステータスとの関係でまずいといけないというのはあるんですけども、あまり気にせずやっています。

ですので、アジアパシフィックなんかで集まりとかがあるときに話をすると、久しぶりに日本に、アジアに呼んでくれてありがとうという声がいっぱい出たり、あるいは欧州でも同じような、あるいは場合によっては、2025年を見越して、特に政府間の会合などでは、ぜひ民主主義国でIGFをしっかりと成功させて2025年につなげてほしいと、その見直しにですね、というような話が出たり、2025年のホストがロシアで内定しているということも踏まえて、結構、とにかく日本に頑張ってもらいたいという声が聞かれたりしています。

まだまだ十分広がってはいないと思いますので、これから9月末に最終決定してくれれば、もうどんどん宣伝していく必要がむしろあると思いますし、今年のエチオピアのIGFではブースも出していただくと思います、一緒に出すことになると思いますけども、会場の場所も決まりますので、ローカルな情報の発信も含めてどんどんみんなに、世界中の人に関心を持ってもらえるように周知していきたいと思っていますところですよ。

【上村】 ありがとうございます。フューチャーホストの話は、そういえばもう飯田さんから聞いたことがあったのをしっかり失念しておりまして、失礼しました。

それは、どこを見るとフューチャーホストって載っているんですしたか。というのは、次の国内の後に予定している会合の宣伝をする上でも、フューチャーホストがこうなっていてというような説明をしたほうが、もしかすると分かりいい、通りがいいのかもしれないと思ったので、どこを見ればよいのかというのを教えていただけるでしょうか。

【飯田】 多分IGFのサイトに入っているんじゃないかと思うんですが、少なくとも、例えば去年のポーランドのクロージングにも、2023年のホスト国として大臣がクロージングリマークスを述べていますので、それは多分、この前JPNICさんに調べていただいたセッションの中身なんかにも入っている情報じゃないかなと、すいません、ちゃんと見ていなくて申し訳ないんですけど、少なくとも私たちはそういう形で大臣のスピーチを送っていますので、去年のIGFに参加した人、クロージングを見た人にはそういう形で知らされていますし、同じような情報がサイトとか、あるいはほかのセッションでも出てきている部分、ところはあるんじゃないかと思います。

【上村】 ありがとうございます。幾つか質問と申し上げたんですけど、今ので一連の流れでクリアになりました。ありがとうございます。

【加藤】 どうもありがとうございました。ほかの方、ご質問はございますか。大変……。

高松さん、お願いします。

【高松】 上村さんが先ほど1点目でおっしゃったようなことと似た話になるんですけども、私もこの協議会の部分について少し、メール等でもお送りさせていただきましたけれども、心配していることがありまして、この場でコメントさせていただけたらと思います。

結構、（国連IGF事務局の）Anjaとかには、上村さんとかからも過去、Japan IGFとはという形で、ちょっと変わった形で年1のイベント報告会と、あと、ほかの形とというので、幾つかのをまとめてJapan IGFという形になっているんですよみたいな説明は過去にされていて、今回、IGF2023というイベントをきちんと成功させるアドバイザーみたいな形での、マルチステークホルダーの何かができてみたいな形になるということで、これがその後どうなっていくのかという辺りは、一番最初の時点である程度、今後どうしていくのか、継続的なものになりそうなのかといった辺りも示していただけるとありがたいかなと思いました。ちょっと体制をもし外の人に話すときに、どう紹介したらいいんだろうというのが、私自身がまだ理解がちょっとできておらず、今後体制などが出来上がった後にご説明等をいただけるのかなと思っているんですけども、その際また理解等を深めていきたいと思います。

以上です。

【加藤】 高松さん、それでよろしいでしょうか。手を……。

【高松】 すいません。

【加藤】 ほかの方、いかがですか。ご質問等ございますか。

ちょっと私からも、せっかくの機会なので、今、飯田様にご説明いただいた協議会の状況なんですけれども、今日のアジェンダにありますとおり、NRIの組織の枠組みとか仕組み、今後、活発化チームが、今まで組織化ということで検討していたことをどうしようかというのが項目にあるんですけども、実はちょっと今日、前村さんのご都合が悪くてご欠席で、ここの部分をカバーしていただけなくて、事前にちょっと伺ったところでは、飯田様が協議会の状況をご説明いただくということで、今までの流れ上、協議会と連携しながら

らこの辺を考えていくというようなことを前村さんからもいただいていたんですけれども、先ほどの飯田様のご説明で、今回の協議会の方向性が2023年の成功のための組織であるという位置づけになっているということで、ちょっとこれまでのチーム会合でご説明いただいていた飯田様の、個人的なご意見とはいいいながらも、やっぱり永続的にこういう活動をしていくことが重要だということと、どう調整するのかなということがあって、それで今、上村さんや堀田さんや高松さんからのコメントもそれに関係したものかなと思ったんですけれども、もう少しスペシフィックに伺うと、今回、2023年のための協議会立ち上げということで、経団連プラスインターネット関連の団体に声をかけていらっしゃるということですので、彼らに対して、じゃあこの立ち上げる協議会は2023年で終わりですよというふうに説明をされるということなんでしょうかね、ミッションとして。まず、それが第1点です。

それから、2023年の段階で日本でホストをしましたと、それまでの経緯も時期もあると思うんですけど、そのときに「NRIというのは誰です？」ということになると、誰という感じで考えていけばよろしいんでしょうか。この協議会というものが一方でありながら、この活発化チーム会合で今までずっとIGF、マルチステークホルダーで参加されてきた組織も継続して活動しているということになると、NRIは形の上で2つあるのか、この活発化チームはその協議会とうまく連携しながら一体として活動していくのかなというちょっとイメージがあって、それで7項目めの組織の枠組みのつくりとかも、その辺を調整しながらやっていくのかなと思ったんですけれども、そこをどうしていくのかなということで、それが2つ目です。

3つ目は、もし完全にそこが2つ、別々にとにかくやってくださいと、チーム会合というのは2023年以降も継続されるんでしょうねということであるとすると、チーム会合としては、やはり組織化というものをもう一度チーム会合として考え直さなきゃいけないのかなというふうに今、ちょっと私も理解できなくなったんですけれども、それが3つ目で、組織化の問題について、チーム会合はチーム会合としてもう一度どうぞ考えてくださいということなのか。

その辺、3つ、いかがでしょうか。

【飯田】 ありがとうございます。私も多分、全部理解できていなくて、しかも、私の勝手な思いが皆様と違っていたり、あるいはそれはちょっとおかしいよということもあるのかもしれないんですが、それはちょっと置いておいて、当初から考えていた私の勝手な妄想としては、協議会というのはとにかく2023年の成功を目指して一時的に集まっていたいただいて、いろんなアドバイスをいただきながらみんなで一緒に活動する。けれども、参加いただく時点でやはり2023年以降のインターネットガバナンスやIGF活動への参画も引き続き義務なんですよというお誘いはしないと考えています。あくまでもIGF2023を成功させることを目的に集まっていたいただいて、もちろん、その後どういうふうに関与していただけるか、いただけないのかというのは、その過程で個々にご判断いただくことになると思うので、あんまりアプリアリに、そこで終わって絶対解散しますよということもあまり言いたくはないわけですけど、当初の目的としては、やはり2023年をしっかりと成功させるための活動をしていただくというふうにご説明すると思っています。多分、そこら辺は今あまり頭はずれていないんじゃないかなと思います、こちらの関係者もですね。

それと活発化チームとの関係は、もともと私の最初のことからのイメージでは、活発化チームは今まで若干一体化できていなかったという、申し上げたら失礼かもしれませんが、いろんな経緯のあったインターネットガバナンスコミュニティの方々がもう1回集まって結束していただいて、NRIとしてしっかりと立ち上がっていただくというイメージでいました。理想的には、この協議会よりも先に法人なり形が整っていて、NRIとしての活発化チームを包摂する形で協議会が形成されるというのが理想的だなと思っていたんですが、ただ、そこは無理やり何かこちらで決めることではないし、当然いろんなことに時間がかかったり、適切な順序というのもあると思いますので、今は法人化、あるいはその組織としての形を決めるということは、2023年の成功という方を優先していただくという

ことになったと理解はしています。

ただ、私の、今、加藤さんのお話をお聞きしていて、ちょっともしかして理解が違ったのかなと思ったのは、法人化じゃなくても、もちろん最終的にはいいのかもしれないんですが、NRIとして活発化チームが形をしっかりとつくるというのは、先送りはされたけれども終わったわけではなくて、活発化チームの形がずっと続くというふうには考えていませんでしたので、これはどういうステータスかはともかくとして、やはりここからNRIになるべき集団がもう1回できてくるというふうに考えています。で……。

【加藤】 ごめんなさい。すいません、途中から。NRIになる集団はどこからですか。協議会からですか……。

【飯田】 活発化チームからです。

【加藤】 活発化チームから。分かりました。

【飯田】 なので、最後の、2023年の時点で、法人化なり、NRIとしての活発化チームの確立ができていなかったときに、誰がNRIで、活発化チームと協議会の関係はどうなるのかというのは、実はちょっとまだ私も頭の中で整理できていなくて、もともとはNRIとしての活発化チームがきちんと出来上がった上で、協議会は2023年に向けて、NRIを中心に国内の関係者をみんな集めて活動していただくというイメージでいたので、ちょっとそこは現実に合わせて頭の中をもう1回アジャストしないといけないということを今、気がついたんですけれども、もともとそのようなイメージでいました。

恐らく私の理解は、皆様の知識と比べてかなり不足していると思いますので、そういうものはいろいろと補っていただいて、まさにアジャストしながら進めていくという意味で、今回は、その法人化なりは協議会の後になったというふうに理解しています。ただ、2023年の時点でどういう姿を目指すかというのは、これ、また引き続き検討をしていただくのかなと。かつ、そういうところも含めて、あまり総務省側でこうしましょう、あしましょう、こうしなきゃ駄目ですというふうに勝手に決めていくというのは、一番適当じゃないと思っていますので、やはり皆様に議論いただいて、時間がかかっても皆様が納得される、総意として決まっていくのがあるべき姿だろうと思っている次第です。

すいません、ちょっとまとまりがないかもしれませんが。

【加藤】 ありがとうございます。

今、西潟様、手を挙げていただいたので、お願いします。

【西潟】 加藤先生、ありがとうございます。西潟でございます。今の飯田さんのご説明のところで少し補足させていただきたいんですけど、補足と修正もなんだけど、修正のほうはメモのほうですね、「継続するとも即終了するとも言いたくない」のではなくて、これはもう協議会ができたなら、協議会の任意性の話なので言えないということで、飯田さんが言いたくないんじゃないというふうなところ、ちょっと誤解のないようお願いしたいと思います。

それから、加藤さんからされたご質問の中で、NRIとの、私の理解が違ったら、むしろすいません、不勉強で、恥ずかしながらそうご指摘をいただきたいんですけど、IGFの事務局との関係において、日本のNRIはIGFジャパンしかなくて、IGFジャパンが手を下ろさない限り、IGFジャパンを何者もその地位を奪うことができないというのが私の理解で、なので、この活発化チームの皆さん、これだけお忙しい中お集まりいただいてディスカッションを鋭意、精力的にされているんだというのが私の理解なので、そもそもそのご質問のあれが当たらないのかなというのはありました。むしろNRIとしてIGFジャパンが、2023年が近づいてきたからということも1つのきっかけだと思うんですけど、2023年のイベントレバレッジとして、いろいろこういうことをご活動なさっているんだというふうに思っていたんですけれども、違ったらごめんなさい、コメントまでということにします。

ありがとうございます。

【加藤】 どうもありがとうございます。飯田様、西潟様、大変ありがとうございます。ちょっと私どもの説明が不十分だったのかもしれませんが、まだ十分理解していないのかもしれないんですけども、もともとこの活発化チームで、この後のアジェンダにも

ありますように、この活発化チームを一体化してというか、過去なかなかうまくまとまっていかなかったという面もあるんですが、さらに一体化して、できれば早めに法人化してもっと永久的な活動をしたいという希望を持っている方が多かったものですから、この8月、9月、秋のイベント頃にはそういう立ち上げを発表できないかということで、前村さんもその中心になっていろいろ議論を始めていただいたんです。

その途中で、今回の総務省様のほうからの協議会のお話があって、取りあえずやはり2023年を成功させるということが重要なので、そのこととこの組織化の話をうまく一体化しながら進めていくということで、活発化チームが法人化するというのがこの夏どうしても必然ということではないんじゃないかというような動きが前回、前々回のところで出てきて、それで、今回の協議会というのも、これはちょっと私の個人的な理解、間違っていたら恐縮なんですけれども、2023年を成功させる、さらに継続してIGF活動するということが非常に重要なので、そういう母体になるのかどうか分かりませんが、そういうことが非常に重要だということをこの協議会設立については言っていただくのかなというふうに思っていたんです。

したがって、協議会は2023年をやることで終わりですという形で人を集めるということだとすると、ちょっとこの活発化チームの今までの法人化の方向性と違うので、それをどういうふうに頭の整理をしないといけないかなというのが今、質問したバックグラウンドです。

西潟様から、活発化チームが引き続きNRIとして国際的にも活動していくということをご確認いただいたということで、それはそれで、そういうことに応えられるチームになっていかないとけないのかなというのがよく分かりました。

私の質問はそういう理由でしたけれども、皆様はよろしいですか。今までの飯田様のご説明、西潟様の補足で、かなり総務省様のお立場というか、お考えがクリアになったと思いますけれども、ほかの方々、いかがでしょうか。

特になければ、次に進ませていただけてよろしいですか。

では、次の点に進ませていただけて、今の点、ちょっと後でアジェンダの7になるところで、またもしご意見があれば皆様にいただければと思います。

次のアジェンダ項目は、MAG報告ということですが、今日、河内さんはおいでになりますでしょうか。

【河内】 はい。

【加藤】 ありがとうございます。

【河内】 特に、このところ、あまり動きがなくて、来月初めに東京に事務局が来るという話をして、9月の末に3回目のオープンコンサルテーションミーティングがあるかもしれないと前回のときに言っていたんですけど、今日メールしたところ、多分もうない、何かアディショナルなものらしくて、どうしても必要だという意見とかがある場合はやることになっているけど、そういうのが今のところないから、今からだと時間的にもう難しいので、多分ないと思うという返事が来たので、ない予定です。

ということで、あと、それ以外には、先ほど飯田さんの報告のところにありますけど、Tech Envoyに、来年のホスト国である日本の、ちょっとお名前は忘れました、ちゃんと聞いてなくて……。

【加藤】 Gillさんですかね。

【河内】 そうですね。（Gill氏）も入っているなというふうに、その発表がされたぐらいで、あとは、意見を、この間ちょっと前回の会合で報告したと思うんですけど、国連のテクノロジーコンパクトでしたっけ、あれに意見をまとめて出したという感じぐらいです。なので、あまり動きがなくてすいません。そんな感じです。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。MAGの河内さんにご質問等ございますでしょうか。

【河内】 グローバル・デジタル・コンパクトです。すいません、ちゃんと出てなくて。

【加藤】 皆様、ご質問はないですか。

河内さん、エチオピアのイベントの申込みとかはもう最終確定したということですか、現状で。

【河内】 いや、やるのは、エチオピアでやることは多分変わらないと思うんですけど、何かレジストレーションとホームページにはありますが、ちょっと中まで行って見ていないので、どんなふうになっているか分からないんですけど、あれ、どうなんですかね、レジストレーションを押すと何か名前とか登録できるようになっているのか、ちょっと分からないですが、そういう意味じゃなくてですか。すいません。

【加藤】 そのことと、もう1つ、前回、各国から申し込んだイベントの募集がありましたよね。それについてどこを採用するという最終決定とか、追加決定みたいなのはもうないんでしょうかといったこともありますけれども。もう締切り、イベントの内容については確定したという感じですか。

【河内】 そうですかね。MAGでは今、メインセッションのオーガナイズンググループみたいなのが募集されて何かやっていますけども、あとはワーキンググループがいくつかあってその活動はしていますけど、それ以外については何もないので、ちょっと分からないんですが、先ほどおっしゃっていたビレッジってやつでしたっけとか、そういうのは全然ちょっと分からないんですけど、すいません。

【加藤】 分かりました。一応、大枠が決まったということですね、現状で。

【河内】 だと思います。

【加藤】 ありがとうございます。

【河内】 あれ、まだIGFの事務局（から）来る方々とのミーティングはいつになるのかとか、その辺はまだ決まってないんですか。これ、総務省の方に伺わないと駄目なのかもしれないですけど。

【加藤】 一応、7日か8日に東京でという、さっき飯田様からいただいた……。

【河内】 そこまでしかまだ分かっていないんですか。

【加藤】 そうですね。

【河内】 分かりました。

【加藤】 すいません、西潟様、手を挙げていただいているようですが、どうぞ。

【西潟】 すいません、せっかくの機会なので、河内先生にちょっといろいろとご確認、加藤さんからもいろいろお話いただいた点とかぶるんですけど、多分私が過去3年に、2017から2019、2020ですね、2020はオンラインでしたけど、関わった経験と記憶からすると、いわゆるエチオピアに行けるかどうか、それ、傍聴者としてですね、であれば、これ、直前まで大丈夫なはずですが、少なくともIGFとの間では。他方で、宿とか飛行機だとかいろんな事前の準備というのは各自の責任においてということなんで、ちょっと遠いんで、私もちょっととても行く時間とあればないんですけど、そういうことだと思います。

他方で、ここからちょっと、私も実はOECDというところから、それこそMAGの皆さんに私らのセッションを入れてくださいようお願いしていた立場なので、それ以上のことは分からないんですけど、なので、むしろ河内さん、この機会を通じてご存じのところをご紹介いただけると大変ありがたい、もちろんMAGの立場として支障のない範囲でというのはあるんですけど。

私の理解だと、ワークショップとかオープンフォーラムだとか、幾つかイベントの種類がありますよね。それぞれについて締切りがあって、もうとっくにその締切りは終わっていると思うんですけど、エチオピアに関しては。みんな一生懸命、提案書を書きなきゃいけないくて、その提案書の審査をそれぞれMAGで、河内さんがどれをご覧になっているかはさておきとして、多分、輪番で適当にチームを分けてやるんだと理解していますけど、多分いろいろとご審査をいただいた上で、例えばワークショップというのは、全部で40個もある中で上位40個が決まるとか、オープンフォーラムというのは20個もあって上位何個、20個まで決まっているとか、そういうようなことを多分いろいろされているし、多分、河

内さんがさっきおっしゃったビレッジとか、いわゆるベニューでのイベントですよね、誰がどの物を出すのかみたいな、そういったところまで、そのブースまでは私もちょっと手を広げなかったんで、エントリーの仕方も存じ上げないんですけど、多分そういうようなのいろいろなイベントの種類ごとに分かれているんだろうなと理解をしていますが、ここまででもし違ったら、何か河内先生、首を振っていただいたりとかしていただければありがたいんですけど。

その中で、加藤さんがお聞きになりたかったことというのは多分2つあって、1つ目は、今からですよ、例えば何かすごいウクライナみたいな、次のことが起きて、急遽何かやっぱIGFとしてもワークショップをしなきゃいけないねとか、さらに言えば、そういう日本から提案するようなことがあり得るのかというのが、私はネガティブだと思うんだけど、多分そういう質問だったと思って、もう1個の後半のほうで加藤さんが言われていたのは、ということからすると、もう大体、オープンにするかどうかは別にして、ここは支障がない範囲でと、私が申し上げたのはこの部分なんだけど、MAGとしてはもう大体の時間割というのは決まっているんですかねということをも、加藤さんはお知りになりたかったんだと思うんです。

そういった意味で、河内先生のほうで、それこそMAGの立場として支障のない範囲でというふうになってしまうんですけども、そういったところの情報を共有いただければありがたいのかなと思います。

ありがとうございます。

【河内】 前回のときにいろいろと少しお話ししたんですけど、ワークショップは、提案が230個だったかな、それぐらい出てきたワークショップの中から、すいません、40件だか70件だか忘れちゃったけど、かなり絞って、というのは会場がすごく狭いしくて、部屋の数がたくさんないので……。

【加藤】 75件と前回、246件のうち75件ぐらいしか、部屋の数でせいだという、何かそういうご説明をいただいていますね。

【河内】 そうです。それを絞るのがとても大変だったんですけど、それは7月にジュネーブで会合があったときにやったということで、それはもう終わっています。

あと、メインセッション、オープンフォーラムというか、それは今、オーガナイズングループというか、何かセッションごとに希望者を募って、そこの中でどういうふうに、誰にするのかとか決めるのか、私は入っていないので分からないんですけど、それをやっているところだと思います。

具体的な、どのワークショップがいつとかいうプログラムは、まだ我々が何か、何も情報が出ていないのでどうなっているか分からないと、前回もちょっと申し上げたかもしれないんですけど、この先に来るのか、それとももう事務局のほうで適当に割りつけてしまうのか、ちょっとその辺は、すいません、今年初めてなので私はちょっと分からないんですけど、今のところ私のところには情報がないです。そんな感じですかね。

あとは、エチオピアのセキュリティーの問題、セキュリティーって、実際にちゃんと行って大丈夫なのかというところは、かなり不安が先進国からすると強いというところはありますけれども、それはまだ、直前までは本当に行けるかどうかはちょっと分からないところが大きいと思います。

【加藤】 分かりました。ありがとうございます。

JPNICルームファイブというところから手を挙げていらっしゃる……。

【山崎】 はい。山崎です。

【加藤】 ああ、山崎さん。はい。

【山崎】 (資料を投影／) 共有していると手を挙げられないようで、こちらで挙げさせていただきました。

【加藤】 そういうことですね。

【山崎】 先ほどの質問に関連してなんですけれども、何か今、海外安全情報を見ますと、エチオピアは危険情報がコロナに関してレベル3で、渡航はやめてくださいとなっ

ていて、ただ、更新日が7月1日で大分前なんですけど、これは近々アップデートされる予定はあるのかどうか、もし飯田さんか河内さんがご存じでしたら、共有いただければと思うんですが。今のままだとちょっとここはやめてくださいと、行けないなと思っているんですけども。ただ一方で、感染者数とかを見ると、1日2桁とかで日本よりはるかに少ないんですけど、それで何で渡航をやめてくださいなのか、ちょっとよく分からないというのが、質問した趣旨です。

以上です。

【河内】 それはあれですね、コロナの状態としてのアラートですかね。ちょっと私が、7月だったと思うんですけど、外務省のページで見たら、アジスアベバは大丈夫だけど、その周りの地域がよくないみたいに書いてあった。アジスアベバ……。

これってあれですかね。これ、インド？

【山崎】 絵はインドが映っていますけど、右側の（中東・アフリカ）のところにエチオピアが入っています。それがレベル3です。

【河内】 そうですね。これがやっぱり、これですね、各国に対する感染症危険情報の発出なので、やっぱり感染症に関する危険情報ですよ。

【山崎】 はい。

【河内】 なので、それもそうだし、それはじゃあレベル3なんですね。そうじゃなくて、感染症じゃない普通の危険情報があるじゃないですか、テロとかそういう、それは……。

【山崎】 そっちは1ですよ、レベルが。

【河内】 そうなんです。アジスアベバは大丈夫だけど、その周りの地域は駄目みたいな、危険が高いみたいなふうに書いてあって。ただ、これもどこまで、そうです、これ、アジスアベバは十分注意してくださいなんです。けど、先進国の人が、ICCの人たちはとても心配していました、これ、実際に行けるのかどうかと。だけど、7月の会議にはエチオピアの何か大臣みたいな人が来て、みんなちゃんとセキュリティもしっかりしているから大丈夫と、それは言っていましたけど。という話も前回もしたかもしれません。すいません。

【加藤】 ありがとうございます。

今、これは上村先生からですね、参加登録はできますと。これ、事前にネットで登録して参加しますという、そういうのがIGFは例年あるんですけども、その登録はできるようになったというご指摘をいただいています。ただ、何か今までのブランクで登録すると足りないということですか、上村先生、これ、そういうことでしょうかね。もう一度アカウントをきっちとアップデートしないと、登録は先に進まなかったということですか。

【上村】 アカウント自体は毎年共通のもの……。

【加藤】 そうですよ。

【上村】 今回初めて性別を3つから選べというのが義務的に要求されたので、ほかにもあったんですけど、そういう項目がじわじわ毎年増えているようです。

いずれにしても、当日だけではなくて、事前の情報を得るためとかにもいろいろと使えるものだと思うので、ご関心のある方は早めに、行く、行かないにかかわらず登録なさっておくとよいのではないのでしょうか。

【加藤】 ありがとうございます。これはオンライン登録、オンラインで参加する場合も登録をしたほうがいいわけですよ。

【河内】 したほうがいいんじゃないかと思います。

【上村】 そのはずですよ。

【加藤】 そうですよ。

【上村】 昨年だか、おとしだかもそういう……。

【加藤】 そういうことだったですね。

河内さん、ありがとうございます。あと、河内さんへのご質問はございますか、エチオピアの会議関連でご質問等があればお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、次に進ませていただきます。

河内さん、ありがとうございました。

【河内】 ありがとうございます。

【加藤】 次のアジェンダ項目として、では、秋のイベントの関連、これはプログラム委員会、上村先生からお願いできますでしょうか。

【上村】 はい。20分は要らないかもしれませんが。今、画面に先日の、直近のプログラム委員会のアジェンダと議論の内容のメモが映っています。そちらもご覧ください。

タスクリストの確認はビジネス的なことなので割愛して、前回大きな話題になったのは、テーマセッションとして採択された4件について、どういうフォローをどういう体制で行うかということがまずありました。

それで、結論から言うと、当初は割と細やかな、きめ細かなフォローをしようというアイデアもあったんですけども、そのフォローを、当日のセッションに立ち会うことも含めてフォローできそうな人がなかなかいないということで、加藤さんとそれから本田さんとお二人がフォローをしてくださる、フォロー担当に手を挙げてくださったわけですけど、2名で、例えばその内容の講義調整だとか、登壇者の追加アレンジとか差し替えとかいうところまでをするのはかなり大変だということになりまして、プログラム委員会を立ち上げた当初は、そういうリッチなフォローをしようということも考えていたんですけども、ちょっと難しそうだということになりました。

それから、セッションを提案した方にしてみれば、これでベストではないとしてもセカンドベストというような内容を、かなり充実したものを提案してくださっているわけなので、後から、外から、後から外部の者がセッションの中身をごちゃごちゃひっかき回すようなことにならないほうが、しないほうがよいだろうということもありまして、そういった2つの事情から、フォローの内容についても少し当初想定よりは軽めにするということになりました。

ということで、結論から言うと、ちょうど黄色で今映っているところがありますけど、本日追記ということで、提案2と4について加藤さん、提案1と3について本田さんにフォローアップの担当をお願いするということと、それからフォローアップの内容については、登壇者がちゃんと確定しましたかとか、ステークホルダーバランスが取れていますかとか、セッションタイトルはそれだけ見て分かるようになっていきますかとか、そういったことを確認するという程度にとどめようということになりました。それから、セッション構成だとか、それから日程の調整についても、フォローの方をお願いするということになりました。

日程というのは、会議自体は10月27日、28日の2日間、3時からの行程で開催することになっていますけども、テーマセッションの募集をしていただく際には、どちらの日付でセッションを出すとかいうことを決め打ちせず、2日間のウインドーで大丈夫だという前提で提案をしてもらったもので、その辺の微調整をこれからしてもらうということで。テーマセッションの提案については以上です。

続けて、メインセッションについてです。

メインセッションの先に、new comer向けセッションについてお話ししますと、IGFの国内、それから海外のUNの開催するものを含めて、インターネットガバナンスとか、それからIGFという会合に新たにいらっしゃる方向けの、そういった方を想定したようなセッションを2日目の後半に開催しようということを、以前より話をしていました。前回のプログラム委員会では、その内容について少しコンセプトを確認したということです。

まず、目的としては、インターネットガバナンスが、こちらを全部読んでいると切りがないので、そういったnew comer向けのものとして開催するということと、それを踏まえて、IGFとは何ですかとか、インターネットガバナンスとは何ですかとか、それから、直近で開催される2022の会合や2023年の会合についてどういう状況かということを知ってもらった上で、ここで「enhanced Q&A」と書いてありますけれども、そもそもIGFで何を議論しているのかとか、その議論が何につながっているのかとか、答えられるものも答え

られないものもありますけれども、new comerの人がインターネットガバナンスとかIGFについて持ちそう、持ち得る、抱きがちな質問について会談していくという、質問というか疑問ですね、疑問について会談していくというような内容にしようという話になっています。

ポイントについては、細かいことですが、一方向のセミナーではなくて、できるだけやり取りがあるようなセッションにしたいということ、あるいは当日のインタラクションでないとしても、事前に質問や疑問点を挙げてもらって、それに対して答えられる人が答えるというような形のもの、そういった要素をぜひ入れようということになっていました。

後半になればなるほど、多分ウィッシュリスト的になっていくかと思いますが、多分どうということになるにせよ、実現する、できそうなのが今のところまでかだと思います。new comerセッションというものを、恐らく、当初の想定だと28日の3つ目の枠に入れるというようなことを考えています。ここまでがnew comerセッションです。

今日初めてこの辺の話聞く方には、多分、日程表とかいうものがないと、どうなっているのか分からないということになるのかもしれませんが、すいません。以前の会合のメモには日程表が入っていると思うんですけど、表形式になっていないもので、大変申し訳ありません。

それから、メインセッションと呼んでいたセッションについての議論もありました。これが議事メモの3です。メインセッションというのが、今回の秋に予定している日本インターネットガバナンスフォーラム2022の全体テーマとして掲げたテーマを拾うことを目的にしようということで、拾うという目的で設けるセッションです。

ウクライナ問題とか、政府のデジタル化、政府だけではないですね、デジタル化の諸問題とか、あるいはメタバースというようなアイデアが浮かんで来たわけですが、ちょっと具体化する、もう少しエラボレーションしてもらえませんかということを、話がなかなか先に進みませんでしたということで、先日のプログラム委員会の段階では、もうこの3つにとらわれずに、もう少し肉づけできるもの、つまり、どういう論点で誰にどういことを話してもらおうのかというような肉づけができるテーマを考えましょうということで、前回のプログラム委員会は閉じたわけです。

ただ、ちょっとここから先、プログラム委員会のメーリングリストではプログラム委員の皆様にはご報告していることですが、ここから先がまだプログラム委員会でも確定はしていない情報ですが、このウクライナ問題、DFFT、メタバースの中で、メタバースの言い出しっぺというか、原提案者の兼保さんと少しその後コミュニケーションをしました。それで、あんまり空中戦で議論してもしようがないので、もう具体的に人が呼べるかどうか確認してから話を具体的に考えてみてはどうかということで、「バーチャル美少女」という、アバター知識人になりますけれども、その方にこのIGF日本インターネットガバナンスフォーラムに登壇できないか、していただけないかということを、兼保さんを通して聞いていただいたところ、登壇はできるというご返事でした。バーチャル、アバター知識人なので、もちろん登壇といってもオンというか、画面上の登壇になりますけど、そういう形で登壇はできるということでした。ただ、27日、28日は先約があって登壇はできないということで、26日にプレイベントのような形でこのメインセッションの内容を拾うことができるのであれば、それでいけるというようなのが現状です。

まだお一人、ねむさんは登壇してもらえそうだと決まっていますが、それ以外の人をどうするかとか、その他の仕掛けはこれからですけど、一応メインセッションの内容については、前回のプログラム委員会では継続審議となりましたが、その後、テーマとして出していたメタバースについて少しやり取りをしたところ、プレイベントとして切り出してもよいのであれば、これを実施できそうだとということになっていて、こういう形でお話をしていることからもお分りのとおり、私としては、ちょっと変則的にはなりますけど、そういう形でこのIGFの目玉セッションを開催してみてもいいかと思っています。そうすることで、IGF的な言葉遣いで言うとイマジンテクノロジーの話題をこの日本

のイベントで拾うということにもなりますし、new comer向けのセッションへのまさに地ならしというか、呼び水にすることができるのではないかなというものになるということです。

報告と若干違う内容が2つ混じってしまいましたけども、前回のプログラム委員会で話したのは以上のような内容です。

それから、ちなみに次回のプログラム委員会は8月31日でしたっけ、もう既に日程が割と固まっておりますので、30日の火曜日の18時から19時半の予定で開催いたしますので、山崎さんありがとう、30日のこの時間になりますので、関係の皆様はよろしく願いいたします。

ということで、報告としてはここまでですが、まず一旦、加藤さんにお返しします。

【加藤】 上村さん、ありがとうございます。ご質問等はございますか。皆さんよろしいでしょうか。

もし、プログラム委員会のメンバーの方でも、付け加えていただくこととかあれば願ひいたしますが、いかがでしょうか。

私もちょっとプログラム委員会に出させていただいて、先ほど本田さんと私でこの秋のイベントの連絡役といいますが、そういうことをやらせていただいて、活動をスタートしたところなんですけど、今、4つのセッションが最終決定しておりますけれども、その4つのセッションの方々が、予定の10月27日、28日のアベイラビリティを確認しています。その結果によって、4つのセッションの時間配分といいますが、どの日にどういうふうにやっていただくかというスケジュールを決められるので、先ほどの、プレイベントが26日にやれるかどうかというご検討をいただいていますけども、それでちょっと全体のスケジュール感というか予定表ができて、もう少し次の段階に進めるかなと思っています。今はそういう意味で皆様の予定を固めていただくという段階です。

どなたかご質問、よろしいでしょうか。

上村さんから、もう追加はよろしいですか。

【上村】 ちょっと画面の共有を借りても構いませんか。あ、借ります。先ほど口頭で話してしまったので、イメージがつかないという方もいらっしゃるかもしれません。少し、もともと用意してあったものをご覧に入れます。

当初は1日目、2日目で、どちらも3時始まり、3セッションずつやろうということだったわけですけど、先ほどお話ししたのは、このメインセッションを前の日に切り出すということです。

この場で、「いやいや、そんなことまでプログラム委員会に委ねたつもりはない」というご意見が多ければ、そもそもこの案がなくなるか、あるいは私がゲリラ的にやるか、どちらかということになるかもしれませんが、いずれにしてもこのメインセッションを前に切り出すということです。

そうすると、よくよく考えると、じゃあこれ、前にずらすのか、時間をずらさずにこのままにするのかという問題はありますが、この点についてはまだ何も考えていません。ということで、ちょっとこの時間、進行表の変更が生じるかもしれませんということでございました。

それから、この案は7月5日のものなので、右側に担当者の名前が入っていますが、これはいずれも現時点では無効のもので、名前を見つけて「何だ、これ？」と思った方はどうぞご安心くださいというか、あくまで当初案ですので、また改めて仕切り直しをいたします。

それから、ちょっとこのついでに、プログラム委員会にお出になっている方にお誘いなんですけど、こういう会議を進める上で、10月27日、28日、プラス、もしかすると26日の会議を開催するというので、このプログラム委員会の実行に関わる方をぼちぼち追加募集をしております。当然というか、いろんなタスクがありますので、例えば当日の司会的なことをお願いする場合もあるかもしれませんが、それから、議事録というものでないにしても、その当日の雰囲気や簡単に、本当にもう1セッション2行ぐらいで簡単にまとめる

ようなことをお願いするという仕事もあるかもしれませんが、いろんな関わり方があると思いますが、まだプログラム委員会にお入りいただいていない方で、この会議のメイキングに付き合ってくださいという方がいらっしゃるようであれば、ぜひ個別にでも、メーリングリスト上ででも、あるいはこの会議の間にでも意思表示をしてくださると、プログラム委員会のチェアを預かっている身としては大変助かります。個別に「どうですかね」とお誘いをするケースもあるかもしれませんが、ぜひよろしく願いいたします。

私からは以上です。

【加藤】 どうもありがとうございました。繰り返しになりますが、ご質問等はございませんか。

では、なければ、次に移らせていただきたいと思います。

次は、NRIの組織枠組み／仕組み、これは今まで組織化とかいったポイントなんですけど、今日ちょっとご予定、ご都合がつかなくて前村さんにご参加いただけないということで、それで、さっき飯田さんのご発言に関連して少し私も触れさせていただいたんですが、立石さん、いらっしゃいましたよね。立石さんのほうからも何かこの項目についてコメントございますか。

【立石】 すいません、どの分でしたっけ。

【加藤】 組織枠づくり、仕組みについてということです。先ほど飯田様からは、協議会の今回の目標についてというのを聞かれたかもしれないですけども、今までこの活発化チームは、協議会とうまく連動して、NRIの受け皿として活発化チームがさらに一体化して、場合によっては組織化をさらに強化してといいますか、法人化を見据えてやりましょうということで議論してきたわけですが、何か立石さんのほうからもアップデートとか、コメントいただくことがあればと思います。

【立石】 従前から申し上げているような、うちのプロバイダー協会としては当然これに関しては関わっていきますということで、一応オーソライズはされていますので、やるときは、ちょっとタイミングとかいうのは若干あるかもしれませんが、基本的にはもう問題ありませんということです。

それと、多分、日本で一番問題なのは、関わっている方には、こういうことを言って失礼な言い方になってしまうとあれなんですけど、市民社会と言われる分野をどうするかというのがやっぱり個人的には一番難しいかなとは思ってしまして、この間もちょっとどなたかとお話ししたんですけど、とはいえ、一応お声かけをしている消費者団体の方とかは基本的にはいいですよと、まだオーソライズはされてないですけども、対面の話の中では問題ないと思います。これは、MyDataJapanさんとかにも一応お話をされていて、いいんじゃないかという話では進んでいますので、ちょっと最終的に向こうが理事会なり何なり、多分そういう必要性があると思うんですけど、そこまでお願いしますというのを、逆にこちら側でどのタイミングで例えば言えばいいのかなみたいな、こっち側の用意もできていないのという話、用意というのはどこまですればいいかということも、その用意というのをどういう基準でもって準備ができたと言っていいかという定義もまずあると思うんですけど。基本的には皆さん、いいんじゃないかというお話はいただいているので、冒頭の飯田さんのお話からも含めて、今の活発化委員会の中で積極的に外側に対して声かけをするタイミングというのが、タイミングというか意識合わせというのがどこまでできればいいというふうにするのがちょっと1つのあれかなと、今は思っています。

なので、周りは大体固められてきているというふうには、私の認知がある範囲では一応思っているんですけど。

そんな感じなんですけど。

【加藤】 ありがとうございます。ほかの方々、何かこの件についてご意見とか、ご質問はございますか。

もしなければ、もう一度改めて、今、総務省様からの協議会の方向性というのが、今日少しご説明いただいたわけですので、もう一度、この活発化チームとしての今後の進め方については、引き続きこの場で議論を進めていきたいなと思っています。それでよろしい

でしょうか。前村さんとももう一度お話をして、今後の方向性を考えたいと思います。

それでは、次に移らせていただきたいと思います、ユースについて。

これ、お願いできますか、山崎さん。

【山崎】 はい。前回、上田さんにお手伝いいただきまして、いろいろコメントをいただきましたので、それを盛り込んだ案をつくってみました。ということで、これについてまずご確認いただいて、よさそうであれば、募集に向けて進められるかどうかということだと思います。

まず、目的のところ、ここをしっかりとしないと響かないだろうということですので、ちょっとここは厚くしてみたんですけれども、インターネット、日頃当たり前に使っているけれども、それにどういうふうに課題があって、どう解決していくべきかといったことを議論すると。解決に導く必要があるというところまで書いていますが、最初は問題を発見するところが大事かなと思っていますけども、一応上田さんのほうで解決まで書かれているので、解決までIGF活動でどれぐらいできるかというところはありますが、一応書いてみました。

若者の世代が自分ごととして捉えて、コンテンツ・技術・ルールづくりをしていく必要があるというところ。

次は、上田さんのほうにはなかったんですけども、なぜ日本が関与をすべきかというところを書いてみました。ここはだから、持続的にルールづくりに参加しないと、蚊帳の外に置かれると、ほかで決まったものを押しつけられるおそれがあるので、持続的に参加しなきゃいけないと。そのためにはユースの育成が必要と。

次は、ちょっとダブってしまっていますかね、国内や地域やグローバルな課題を発見して議論を先導する。「若者に必要な」ということがついています。

次も、またちょっとかぶっているかもしれないんですけど、IGF活動に参加する次世代、これは国内・地域・グローバル全てに係るものですが、そういう目的ということですよ。

「建て付け」のところは変わっていないような気がしますけども、全く変わっていないわけではないですね。取りあえずは日本の国内NRI活動が設立する活動なんですけれども、自立できそうになったら独立してもよいかということで、1で始まって、2にも行く可能性があるかなということです。

具体的な行動項目としては、国内でユース会合を開催するかどうかですけども、これは単独で開催するのか、活発化チームのイベントの一部としてなのかは、ちょっと検討が必要だと考えています。

その次は、前回と変わらないですけども、既存というか、今後行われるインターネットガバナンスの関連イベントに若者を送り込むというもので、最終的なゴールとしては、日本で開催されるIGF2023のユースイベントに十分な数の日本のユースが参加する。発言も議論もすると。

逆順になりますけど、その前段階として2023年の国内の事前会合でユースが発表する、APrIGF、Asia Pacific YouthのIGF、これに日本からのユースが参加する。その前は、今年の国内事前会合にユースが参加するというのを、3点目は、インターネットガバナンスに関して若者が勉強できる枠組みを構築するということです。これは月1回程度のペースで、Asia PacificのYouth IGFまでに勉強セッションを開催するということです。

最後は、有志では息が続かないかもしれないので、継続的にも参加できる仕組みと。これは既存の教育機関との連携が必要になると思いますけど、そういったものをつくるということが含まれるかと思います。

スケジュールとしては、イベントへの参加ということでは、かなりさっき言ったものと重複しますけども、それまでには、ですから、この教育セッションについて、何を学んでいただくか、誰が講師になるかといった辺りを決める必要があります。その辺が固まれば、対象者を募集して選定するということができるかなと思います。

エンゲージメントとして、参加希望者を集めるための方法ということで、これは前回、

実積さんなり、いろんな方にご意見をいただきましたけれども、いろいろなところに、特に教育機関に声をかける必要があるかなと思います。

あと、並行して、企業なり団体なりに声をかける必要があるのかなと思っています。

3点目は、前回上田さんにご指摘いただいた、学術ネットワークでの広報をしてみてもどうかとか、いろんな団体の人材育成プランで広報していただく。あとは、教育機関も先生とか、先生に声をかけて広めていただく、そういうことが必要だと。

あとは学会ですね。この辺りは今日ご参加の皆様や、今日は参加できなかったけれどもメーリングリストに参加なさっている皆様に、ぜひこの学会に声をかけたらいいんじゃないというアイデアをいただきたいんですけども、私が思いつくのは3つぐらいしか出てなかったんですが、書いてみました。

次は、海外のユース活動を先導している団体とも組んで、協力して、場合によってはお互いのイベントに相互乗り入れするということできれば一番いいかなと思っています。この中ではAPSIG、AP School on Internet Governanceに「こういうことがあるかもしれない」というレベルの連絡はしています。

あとは、前回出しましたが、総務省さんなり安心協でやっていらっしゃる高校生ICTカンファレンス、これは立石さんが前回お話しされていたことなんですけど、その、ですから、来年の2月、3月のカンファレンスに参加なり、広報なりしていただけないか、そういった辺りではないかなと思います。

教育セッションについては前回とあまり変わっておりませんが、講師候補はちょっと書き足して、ただ、これはまだ打診はできておりませんという感じです。

実積先生からのご指摘にありましたけれども、これを受けることでどういうご褒美があるんだという観点での動機づけですが、あまりこれといったものは打ち出せていないんですけども、何か賞みたいなのをどなたか権威のある方の名前で出せば一番いいかなということで、インターンと比較されてしまうということになると、企業から何らかの動機づけの対策が必要になるのかなと思うんですけど、この辺、もしよいアイデアがあれば共有いただければと思います。

募集要項案のところは前回までと変わりはありませんので、ちょっと時間もあれですし、スキップしましょう。こういったところですね。

あとは、リソースとしては、費用ですけれども、海外のイベントに派遣する場合は、ここに書いてあるような、1人当たり全部行くと75万円かかるということになります。リモートでも参加できるものが多いので、必ずしも全部ということにはならないかもしれませんが。ここは、だから費用手当て努力をしないということになります。

あとは、私だけでやっているというのはあまり、このチームのなりわいからしてよろしくないんで、手伝っていただけるボランティアがいらっしゃると一番いいかなというところです。

以上でご説明を終わります。

【加藤】 山崎さん、ありがとうございます。大変詳しくいろんな項目を追加していただいて、かなりよく分かったと思いますが、皆さん、ご質問とかご意見はございますか。

堀田さん、お願いします。

【堀田】 どうもありがとうございます、詳しく。

1つお伺いしたかったのは、インターンという言葉があって、これはどういうイメージなんですか。どこが主催するインターンという感じなんですか。

【山崎】 インターンをやるというよりも、この教育セッションを受講したらインターンとして認めてもらえないかという、そういう意味合いでインターンと書きましたが、インターンプログラムを別につくるという意味ではないです。

だから、前回、実積さんから、大学生がインターンと比較して、インターンのほうが興味ありそうだったらそっちへ行っちゃうよということだったので、例えば活発化チームとか、その先の組織化にご賛同いただける企業のほうから、このセッションに参加した

学生はうちの会社のインターンをやったものとみなすよとかいうふうになれば理想なんで、なかなか実際はそんなにうまくいかないかもしれません。そういう意味合いで書かせていただきました。

【堀田】 単位をあげるというふうに思えばいいですかね。

【山崎】 まあそんな感じですね。

【堀田】 分かりました。

【加藤】 ありがとうございます。ほかの方はいかがでしょうか。

【上村】 上村ですが、よろしいですか。

【加藤】 はい、お願いします。

【上村】 せっかくユースというか、若者に頭を使っていろいろ考えてもらうわけなので、その成果をIGFのユースセッションとかで発表できるように段取りをつけてやるのがいいんじゃないかと思うんですよね。これ、誰に言えば＜聞き取り不能＞になるのか分かりませんが、我々が賞とか出したりするよりも、やっぱりその先につながるというイメージを持ってもらったほうがよりよいと思います。なので、国連が主催する2023年のIGF2023のユースセッションの登壇者として何とかされますみたいなことが書けると、参加する、してみようという、この一連のプロセスに関わってみようということがイメージつくかもしれないなと思いました。

これも、事前会合に参加してくれるとか、APユースIGFに参加してくれるとかいうのは書いてありますが、これはあくまで自発的に参加してくれるということだと思うので、何か本人たちにとってのやる気になる餌、エンジンとしては、何か国際会議に登壇できますみたいなことも見えているほうが、多分こういうことに関心を持つ若者にはアピールするのではないかという気がしました。ただ、じゃあそれは誰に誰がどうつなげばいいのかは分かりませんが、そういう視点もあっていいのかなと思います。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。ほかはご質問、コメントはございますか。

山崎さんから、このユースのプログラムを検討するチームにぜひ、山崎さんに加えて参加していただきたいということがあったので、山崎さん、正式にさらに募集されるんでしょうか、それは。

【山崎】 そうですね。今日は参加できなかった方もいらっしゃるから、メーリングリストで募集したいと思います。

【加藤】 そうですね。もうかなり具体的で、お声がけをする段階になりつつあるようなので、ぜひボランティアを募集していただければと思います。今日のこの内容も恐らくもう一度流していただくといいように思います。

【山崎】 分かりました。

【加藤】 ありがとうございます。それでは、ユースの件はここまでにして、次に移りたいと思います。アジェンダをもう一回拝見できますか。

次は、チーム会合の運営について。これは特に今日、具体的な議題が上がっているわけではないんですが、何か運営に関してご意見やご質問をお持ちの方はいらっしゃいますでしょうか。

今日は特にないですか。もし引き続きあれば、このメーリングリスト、また、次回の会合でも上げていただければと思います。項目として常にこういう見直し、項目として残しておきたいなと思っています。

それで、To Do確認ですけれども、ここに山崎さんを書いていただきましたが、何かここで追加で忘れたこととか、ご指摘はございますか。今のユース、それからNRIの組織化は引き続き議論するというので、ここは次回までも検討を進めたいと思います。

秋イベントに関しては特に宿題とかはなかったですね、プログラム委員会からも。

ということで、次なんですけれども、次回の打合せなんですけど、実はちょっと私もメーリングリストに流させていただいたんですけど、12日にどうしても予定が、都合悪くて、どなたかチェアをお引き受けできないでしょうかと書かせていただいたんですけど、その

後、ここに書いていただいたとおり、もし日程変更をするとなると、というか、12日は、実は先ほどお話があったAPrIGF、シンガポールである会議との関係で、12日に自身が参加できないという方が若干いらっしゃるという伺っておりまして、この際、日程を変更していただくというお話をいただきました。

それで、候補として、その前の週か、その週後半ということで考えると、前の週は先ほどの飯田様、皆様の、Chengetaiさん以下、IGFのミッションがいらっしゃるということで、16日かそれ以降にしたほうがいいんじゃないかということコメントいただいたんですが、もしよろしければ、この場で今日は16日の金曜日を仮決めさせていただいて、そのことを今日の会議で仮決めしたということで、どうしても不都合だとかということで、変えるという何か大きな理由をご指摘いただければ、メール上で検討するということにさせていただきますと思うんですが、いかがでしょうか。

何か、「いや、それはもう都合が悪い」とかということはございますか。9月12日、13日、14日がシンガポールとして、翌日に移動されたりすると、16日が、なるべく3週間に1回の月曜日という原則に近いところで調整可能な日かなと思いましたので、16日の金曜日、17時から19時ということで仮決めさせていただいて、もし大きな理由でそれも不都合ということになれば、その翌週に変えていただくということにさせていただければと思います。

何かご意見があればいただきたいんですけど、いかがでしょうか。

よろしいですか。

それでは、次の項目としては、もうこれで終わりですよ。

山崎さん、これでアジェンダ項目は終わりですね。

最後、言い忘れたとか、別件、この件はという何かコメント等ございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

高松さん、お願いします。

【高松】 次回の活発化チーム会合が、IGFの事務局の皆さんが来日される9月7日、8日の後になるかと思うんですけども、IGF事務局の方たちと活発化チームの人がお会いできる30分から60分の場をという、先ほどの飯田さんのお話を聞くに、そこに参加する人とか、何を話すのかといったことの面とか、どういうふうに進めるのかなというのが疑問に思いました。というので、すいません、具体的な案がないんですけども、気づいたことをお伝えさせていただきます。

【加藤】 逆に言うと、活発化チームをその7日または8日の前にやったほうがいいんじゃないかということでしょうか、このご指摘の理由は。

【高松】 何か活発化チームはこう考えているみたいなことを、皆で決めるという形を取ったほうがよさそうということであれば、ちょっとメーリングリスト上でその話ができるのかなと思うと、集まれる人がいそうでしたら、集まって話したほうがよいのかなと思いました。

【加藤】 この点、いかがですか、皆様。これ、ちょっと7日、8日にIGFのミッションの方とお会いする趣旨にも関係するんですけど、ちょうど手を挙げていただいているので、飯田さん、その辺も含めて、活発化チームがお会いするときにどんな感じで進めたらいいのかということを含めて、何かコメントがあればお願いしたいんですが。多分、手を挙げられたのはその理由じゃなかったかもしれませんが、何かございますか。

【飯田】 その理由でございまして……。

【加藤】 そうですか。ありがとうございます。

【飯田】 先ほどちょっとお願いしたとおり日程の調整を、どなたということでこちらでお願いするというわけではないんですけども、なるべく多くの方のご都合が合うような時間調整をしていただきたいと思います。

事前に打合せをする必要があるかどうかは皆様でお決めいただいたほうがいいと思うんですが、もう一度、一行にはそういう会合であちから何か聞きたいこととか、こちらから話してほしいことがあるか、あるいは聞いてほしいことがあるかというようなことは一

応聞いておきますが、今までの理解では、本当に日本で開催するIGFに向けての皆様の期待とか意気込みとか、そういうのをお話しただけがいいというふうに、今のところは理解していますので、必ずしも皆さんがワンボイスで一致した意見を言っていたかなくともまずいようなものではなくて、むしろ皆さんでエンゲージメントが分かるようなお話が活発に行われればそれで充分ですし、今のこの活発化チームの取組なんかをご紹介いただいても、国内イベントとか、いいのかなとも思っていますので、準備についてはお任せをいたしますけれども、ぜひ日程の調整をお願いしたいと思いますのと、あと、事前に聞きたいこと等について、ミッションの要件があれば、皆さんにメールベースでお伝えをしたいと思います。

【加藤】 ありがとうございます。日程の調整ということは、このIGFチームの中でこの時間をというふうにするのか、むしろ、お忙しいご一行、ミッションの方と総務省の方々なので、この時間、ここここが空いているからとか何かいただいて、それではそれに出られる人は参加するということかなという印象を受けたんですが、そこはどういうふうに進めればよろしいでしょうか。

【飯田】 そうですね。確かにいただいた時間で調整がつかないと困るというのはありますけれども、一方、まだこれから2日間の日程を組みますので、皆様のほうで2つ、3つ候補をいただければ、なるべくそれに合わせて組めるようにしたいと思います。

で、8日は金曜日かな、金曜日の午後、木曜日か、8日が午後……。

【加藤】 8日は木曜日ですね。

【飯田】 木曜日ですね。の午後、遅い時間帯はちょっと別に充てざるを得ない可能性が高いので、できればそこ以外のスロットで候補をいただければいいかと思いますが、もし皆様かなりばらばらで、こちらから指定したほうがいいということであれば、おっしゃっていただければ、ほかの日程を見ながら、恐縮ながら指定をさせていただくということも可能ではあります。

【加藤】 これ、私が言ってあれですけども、7日は1日、朝から夕方までオーケー、8日は3時までオーケーとかいうのであれば、その中でこの辺の時間帯が飯田様のほうのほかのご調整との関係でもありがたいというのを幾つかいただいて、こちら側で調整するほうが多分、人数的にはそのほうがうまく進むのかなという気がします。

【飯田】 分かりました。そうしましたら、7日と8日のスロットを2つ、3つ選んだような形で後で周知するようにします。

【加藤】 そうですね。ありがとうございます。それで、その中でここはどうしてもという人が多ければ、なるべく参加できる方が多いのはこういう順番ですというご連絡をさせていただくということでしょうか。

【飯田】 はい。よろしくお願いいたします。

【加藤】 それと、高松さんからのご指摘に関して、飯田さんからは聞き取り不能として、ワンボイスを何か期待するような会議ではないということなんですけど、高松さん、それはよろしいですか。

【高松】 はい。どちらかというと、私自身というより、活発化チームの皆様が特にその流れで問題なければ、私としては異存ないです。

【加藤】 恐らくこのミッションに対して何かそういう具体的な話を議論する場として設定されているのではないんじゃないかなという気は私はしているので、この活発化チームというのはこんなのがありますというのを、ずっと出ていただいている飯田様からもう事前にブリーフィングしておいていただいて、それで十分だと思うんですが、こういう活動をしているチームだということでご紹介いただいて、あとは適時、参加された方がご意見やご質問をされればいいのかと思うんですけど、飯田さん、そんな感じでよろしいでしょうか。

【飯田】 はい。私はそういうイメージでおりますので、一応ミッション側に確認はしますけれども、自由に意見交換していただいて、まさに活発なところを見せていただければ十分じゃないかと。

【加藤】　　そうですね。多分知っている方も多いと思うので、出られる方も。そういう意見交換ということで、何かまとまってということでその場で何か意見を伝えるということではないのかなと思います。

高松さん、よろしいでしょうか、それで。

【高松】　　はい。大丈夫です。

【加藤】　　ありがとうございます。

先ほど西潟様からも手が、挙げていらしたように思ったんですけど、西潟様？

【西潟】　　大丈夫です。万が一、飯田さんの、こっちから人の手が見えなかったもので。

【加藤】　　ああ、失礼しました。飯田さんからご回答いただいて……。

【西潟】　　ありがとうございます。

【加藤】　　同じ内容ですか。今のようなことでよろしかったでしょうか。

【西潟】　　私の理解は、飯田さんが今ここで申し上げたとおりです。

【加藤】　　ありがとうございます。

それでは、ほかに、せっかくずっと参加していただいた、飯田さん、西潟様、ほかに何か付け加えとか、何かございますか。今日はいろいろ情報満杯で、ありがとうございました。

【飯田】　　ありがとうございます。特にあれですが、先ほどセッションの話があったので、ご参考までに、オープンフォーラムについては総務省から3件提出をしていますが、もう採択の通知が来ました。来たばかりですけども。

なので、エチオピアの現地に行けるかどうかという先ほどの話はありましたけども、日本というか、総務省として3つ開催をすることを考えていますので、また皆様と情報共有して、いろいろご意見をお聞きしていきたいと思います。

【加藤】　　ありがとうございます。こんなような内容というのが開示できる段階になれば、ぜひよろしく願います。

オープンフォーラムについても、ある程度マルチステークホルダーを意識してということですよ、それは。

【飯田】　　そうですね。当然セッションの構成は、地理的にもコミュニティ的にもある程度バランスが取れていないといけないので。

【加藤】　　そういうことですよ。

【飯田】　　はい。

【加藤】　　分かりました。ありがとうございます。

ほか、西潟様からもよろしいですか、もう。

【西潟】　　私は大丈夫です。ありがとうございます。

【加藤】　　では、今日は皆様、大変長い間ありがとうございました。

ということで、今回は、3週間後プラスアルファの一応仮決めで、9月16日の金曜日ということで予定しておりますが、次回またよろしく願います。

その前にもう飯田様からのご紹介があった会合に参加される方は、ぜひそこでもご発言、ご参加をよろしく願います。

では、今日は長い間ありがとうございました。これで閉会とします。ありがとうございました。

以上